

ANIVERSARIO 66 DEL TRIUNFO
DE LA REVOLUCIÓN

**FELIZ
2025**

祖国とは利益の共同体であ
り、伝統と目標の統一、愛と
希望の甘く優しい融合である

— ホセ・マルティ

Miguel Díaz-Canel Bermúdez
Primer Secretario del Comité Central
del Partido Comunista de Cuba
y Presidente de la República

Lis Cuesta Peraza y familia



キューバ革命
66 周年

昨年、キューバは、多くの困難に見舞われ、「特別期」に匹敵する厳しい年となりました。GDP はマイナス2%から 5%の下落と推計されています。

66 年の長きにわたり、歴史の逆流を許さず、より良い世界の実現のため大きく貢献してきたキューバ革命の意義は計り知れません。

CUBAPON はキューバと連帯し支援するとともに、キューバに大いに学んでいきたいと考えています。

今年もよろしくお願いします。

今日のキューバでは、英雄に会いたければ、誰も遠くまで足を運ぶ必要はない。

英雄は大勢いるからだ。たゆまず繰り返し立ち向かう、あらゆる肌の色、あらゆる年代の革命の心身をそこに見ることができる。

メダルや名誉など気にしない。なぜなら、日々、暮らしに貢献しているのだから。

負けるなどと思わない。

勝つことしか考えない。

彼らに、何をしているか聞いてみるといい。

「私たちは闘っているのだ」と答えるだろう。

闘いの真っ最中だ、と。

泣くことも、ひさますくこともなく。

なぜなら、史上最強の帝国が、冷酷にも邪悪な牙を剥き、60 年以上にわたって、愛する祖国が幸せになる権利を阻んでいるのだから。

英雄たちには名前がある。

それは、明るく陽気な子どもたちだ。

それは、記号のように慎ましく、光に満ちて、陰に日向に多くのすばらしいことを成し遂げる教師たちだ。

それは、油とすすと泥にまみれ、ネジ穴を磨き、火力発電所のボイラーを取り付け、ハリケーンで倒された高圧線の鉄塔を建てる工事現場の労働者たちだ。

それは、医師たちだ。

それは、看護師たちだ。

それは、科学者たちだ。

それは、芸術家たち、クリエイターたちだ。

それは、いろいろなことがスムーズにいくことを願っている起業家たちだ。

それは、子どもの制服にアイロンをかけ、いつも炊飯器の前に立つ家族たちだ。

それは、何か役に立ちたいと願っている、我が国の聖なる力、若者たちだ。

みんな英雄だ！ 負けることなど考えない、みんなが英雄だ！

私たちの歴史と人民とともに

『唯一の選択肢は闘うことだ！』

勝利の日まで！（¡Hasta la victoria siempre!）

社会主義か、死か！（¡Socialismo o Muerte!）

祖国か、死か！（¡Patria o Muerte!）

我々は勝つ！（¡Venceremos!）

—キューバ共和国 ディアス-カネル大統領

※大統領が大晦日に発信した SMS より（訳 M）

停電・ハリケーン・地震

2024 年秋・キューバを襲った3つのできごと

2024 年 10 月 18 日から 23 日までの 5 日間、キューバ内のほとんどの家庭が停電するという大停電が発生しました。病院は非常事態下で運営されましたが、学校や大学を含め諸機関は活動を停止し、経済は麻痺しました。

そうしたさ中、10 月 20 日、ハリケーン「オスカー」が東部を直撃、グアンタナモ州、オルギン州、ラス・トゥナス州に壊滅的な打撃を与えました。国際的に知られているキューバ市民防衛隊（グアルディア・シビル）の懸命な努力にもかかわらず、5 歳の少女を含め、グアンタナモ州北部を中心に 8 人が死亡、2 人が行方不明となっています。

停電が復旧と再発を繰り返す中、11 月 6 日、ハリケーン「ラファエル」が西部を襲い、マヤベケ州、アルテミサ州を中心に大きな被害を受けました。

さらに、11 月 10 日、キューバ東部で 2 つの強い地震が発生、揺れはサンティアゴ・デ・クーバ、グアンタナモ、グランマ、オルギンの各州を含む広い範囲に及び、高圧鉄塔の倒壊。12 月 4 日には、再度、大規模停電が発生するという、キューバ全土が非常に厳しい状況に置かれています。

伝えられている被害状況

11 月 14 日、オスカー、ラファエルの 2 つのハリケーンと東部地震の被害は以下の通り発表されました。

- ・住宅部門：34,000 棟以上の家屋が全壊、半壊、屋根の崩壊などの被害
- ・電力部門：約 2,449 台の変圧器が被害、膨大な数の電柱が倒壊、200km の配電線が損傷、8 本の高圧鉄塔が倒壊
- ・農業分野：37,000 ヘクタールの農業用地と 381 の農業施設に被害。損失額は 3 億 8,300 万ペソ（ドル）以上。
- ・その他：22 の病院、605 の通信柱、276 の教育施設、189 の国内商業施設、25 の倉庫、88 の灌漑システム、4 つの橋など、さまざまな分野で被害が出ている。

キューバを苦しめるものの正体

●LaJornada

メキシコ、ラ・ホルナダ紙 社説より

《2024 年 10 月 20 日 08:14》

キューバは、最大のエネルギー危機に見舞われており、キューバのほぼ全域で 1,100 万人の住民のうち 1,000 万人が電力を奪われている。停電は以前から頻度と時間を増して発生していたが、17 日木曜日に主要な熱電発電所が停止したため、電力システムが完全に破壊され、当局と技術者が電力供給の回復に取り組む間、学校授業の停止とほぼすべての経済活動の停止を余儀なくされた。住民は、この事態が食料腐敗による飢饉の切迫につながるのではないかと懸念している。危機の直接的な原因は、熱電発電所に電力を供給する燃料の不足にあり、天候の悪化で重油を積んだ船の到着が遅れたことである。しかし、究極的な原因は、キューバの大小すべての問題に共通するものと同じである。60 年以上前に米国政府がキューバ国民を飢えさせ、当局に反旗を翻させるという、公言された目的で科した経済・通商・金融封鎖である。その邪悪な目的は挫折したものの、キューバが外貨獲得や必要物資の調達で直面する計り知れない困難は、確かに日常生活に必要なあらゆるものの深刻な不足を招いている。

封鎖論はしばしば単なる口実とみなされ、主権国家に向けられた、武器を用いない侵略の最も厚い網を構成する何十もの法律や政令の犯罪性は忘れられがちだ。カリブ海に浮かぶ島であるキューバの経済的天職は観光であり、アメリカからわずか 144 キロという立地は、アメリカ人を当然の基本的な市場にしている。しかし、アメリカ政府の違法な規則は、自国民のキューバへの観光渡航を禁じている。しかし、この違法な制裁措置は超大国の住民に影響を及ぼすだけでなく、地球上のどこの国であれ、ハバナに玉ねぎであれ、抗がん剤で

あれ、子どもの学習ノートであれ、何かを売買する企業は、世界の金融システムを独裁的に支配するアメリカによって迫害され、潰される可能性がある。ほとんどすべてのラテンアメリカ・カリブ海諸国にとって最も重要な収入源のひとつである、海外で働く国民からの送金も、キューバに対しては閉ざされがちだ。なぜなら、アメリカ帝国主義の多くの触手のひとつである国際決済システムへのアクセスが認められていないからだ。

ウゴ・チャベスがボリーバル革命の先頭に立ってベネズエラで民主的に政権を握って以来、ベネズエラは石油の出荷でキューバ国民に貴重な援助を提供してきた。しかし、アメリカ政府がベネズエラ国民をキューバ人と同様に残虐行為の犠牲者にしたため、ニコラス・マドゥロ政権はキューバへの援助を削減せざるを得なくなり、極めて不安定な状況に追い込まれている。同時に、ハバナは、電気エネルギーインフラの劣化を回復させるための機械、工具、スペアパーツを購入することを妨げられている。キューバはまた、エネルギー転換に必要な技術へのアクセスも拒否されている。アメリカ政府の現職をはじめ、西側の指導者たちが演説で気候変動との戦いの原動力になると宣言しているにもかかわらず、である。現世紀において、イスラエルがパレスチナの人々に対して行っていることを除けば、アメリカほど系統的かつ持続的に民間人に対して残酷な行為を行っている国はない。キューバ人に対する攻撃で、アメリカは人々の尊厳ある生活を送るためのあらゆる見通しを奪い、甚大な苦しみをもたらしている。これは、アメリカの政治階級が人々の幸福や自由について語りながら、その実、全く無視していることの証拠である。

それでも革命は生き続ける！

MARCHA CONTRA EL BLOQUEO

Y LA PERMANENCIA DE CUBA EN LA LISTA DE PAÍSES
SUPUESTAMENTE PATROCINADORES DEL TERRORISMO

20 DIC • 4 P.M. • MALECÓN HABANERO



「封鎖」反対デモの呼びかけチラシ

米国による経済封鎖に反対し、キューバをテロ支援国リストから除外することを求め、12月20日、ハバナで大集会が決行されました。

停電、ハリケーン、地震の三重苦に苛まれながらも、この日、キューバの人々はマレコン通りを埋め尽くし、闘う意思を高らかに示しました。まさに驚異的な強さです。

米国大使館前の反帝国主義の演壇に立ったディアス＝カネル大統領は「キューバ革命は、それを打ち砕こうとしたすべての米国の政権を乗り越えてきました。そして、これからもそうであり続けるでしょう！」と改めて宣言しました。



マレコン通りを埋め尽くす！



ディアス＝カネル大統領、ラウル・カストロさんを先頭に！



キューバは負けない！キューバ人は強い！

キューバ革命は、それを打ち砕こうとしたすべての米国の政権を乗り越えてきました。

そして、これからもそうであり続けるでしょう！

ディアス＝カネル大統領

キューバに対する「封鎖」撤廃を！

国連総会、32年連続で「撤廃決議」可決



電光掲示板の「反対2」は米国とイスラエル

10月30日、第79回国連総会において「キューバに対する米国の経済・通商・金融封鎖に反対する決議」が、賛成187、反対2（アメリカ、イスラエル）、棄権1（モルダビア）と、圧倒的多数で採択され、32年連続で可決されました。

1962年以来の累積被害額は1,640億ドルに上ります。2023年度、封鎖による累積被害は50億ドルで、封鎖がなければ、2023年度キューバのGDPは、8%伸びていただろうと推計されています。

一つの国にこれだけの害を及ぼす、ジェノサイドとも言ふべき不当な米国の政策を圧倒的多数の国が拒否するのは当然のことです。

キューバ支援カンパにご協力ください

米国によるジェノサイド的「封鎖」政策でキューバ国民が強いられている多大な犠牲が、エネルギー危機の影響によってさらに深刻化しています。

さらに、この間の2つのハリケーン「オスカー」と「ラファエル」、2つの大地震といった気象現象で被害が二重三重に増大しています。

こうした困難な状況に歯を食いしばって耐え抜いているキューバへの「連帯・支援カンパ」を取り組めます。皆さまのご協力をお願いします。

CUBAPON の会費・寄付金の振込先

●郵便振替口座

番号：00170-2-195919

口座名：日本キューバ連帯委員会

●ゆうちょ銀行口座

番号：〇ー九（ゼロイチキョウ）店 195919

口座名：日本キューバ連帯委員会



第8回日本キューバ全国友好の集い（キューバ大使館）

【「友好の集い」を共催した8団体】

- ・日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）
- ・キューバ友好円卓会議
- ・思想運動
- ・キューバの主権を擁護する有志の会
- ・全日本民医連
- ・日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
- ・日本キューバ科学技術交流委員会
- ・日本キューバ友好協会

ゴンサレス ICAP 総裁・アリシアさんを迎えて 日本キューバ全国友好の集い

2024年10月26日、ICAPのフェルナンド・ゴンサレス総裁とアジア・オセアニア局長のアリシアさんを迎えて、第8回日本キューバ全国友好の集いがキューバ大使館において開催され、共催8団体からの代表36人と、14人の個人出席者、ヒセラ・ガルシア駐日キューバ大使をはじめとする大使館関係者12人が参加しました。

CUBAPONからは、村上さんと根岸さんが代表して参加してきました。

集いでは、ヒセラ・ガルシア大使、フェルナンド・ゴンサレス ICAP 総裁よりご挨拶を頂いた後、各団体代表と個人出席者からの連帯の挨拶が述べられました。

CUBAPONからは村上事務局次長が、ICAPと築いてきた友好関係、訪問団とレポート集の発行など、CUBAPONの活動について、アリシア局長との思い出をまじえて、スピーチしました。ヒセラ大使によれば、アリシアさんが涙を浮かべて聞いていたとのことでした。

最後に、8団体及び個人出席者一同による「声明」（下記）を採択し、第一部「集い」を終了しました。

その後、会場での立食パーティに続き、中華レストランに移動して第二部の交流会と、盛りだくさんの内容でした。

声 明

第8回全国日本・キューバ友好の集いにおける8団体の声明

今日ここに集まりました私たち8団体と個人は、下記の3点を強く訴えます。

1. アメリカ政府が、1962年以来、国際法及び国連憲章を無視して、不当にキューバに押し付けている対キューバ経済・通商・金融封鎖は、キューバ国民に多大の被害をもたらしています。被害総額は、この一年間で5億5,680万ドルに達します。封鎖がなければ、キューバのGDPは2022年に9%成長した可能性があると言われています。こうした無法な経済封鎖は、国連総会でも、1992年以来圧倒的多数で32年連続して、解除決議が採択されています。こうした非人道的な封鎖が一日も早く解除されるよう求めます。
2. アメリカ政府が、独自の判断で、キューバをテロ支援国家リストに指定していることから、上記の経済封鎖に加えて、毎年数十件のキューバへの制裁措置が実施され、キューバの貿易と金融に大きな障害をもたらしています。2021年1月、退任直前のトランプ大統領は、再びキューバをテロ支援国家に指定し、バイデン政権は、それを引き継いでいます。キューバ政府自身も、あらゆるテロリストの支援を否定していますし、キューバが、テロリストを支援している事実もありません。米国の一方的なテロ支援国家の指定には、同盟国も同調していませんし、日本政府もキューバとは友好的な関係を維持しています。この措置は、アメリカ政府の政策によって、議会の同意を得ずともテロ支援国家リストからの排除できますので、早急な排除を求めます。
3. アメリカ政府だけでなく、EUの国々にも、キューバの国内問題で一方的に人権問題などを批判している事例が見られますが、必ずしも正確な報道がされていません。人権問題、国内の政治制度は、キューバの主権の問題であり、キューバ国民が判断をする問題です。私たちは、関係各国がキューバの主権を尊重するよう強く求めます。

以 上

2024年10月25日

第8回全国日本・キューバ友好の集いにおける8団体及び個人出席者一同



ゴンサレス ICAP 総裁の言葉 (要旨)

ICAP からの親愛なるご挨拶をお伝えできることを光栄に思います。

60 年以上にわたる封鎖は、あらゆる分野でより大きな発展をめざすという革命の目的を遅らせ、また、キューバを一方的なテロ支援国リストに含めることで、キューバと商取引を行い、キューバに投資しようとする国々に大きな恐怖を与えています。

しかし、連帯は、憎悪や制裁、制限や限界に打ち勝ってきました。グループや代表団によるキューバ訪問は、真実以上に価値のあるものはないこと、キューバはこれまでも、これからも決して孤立していないこと、そして連帯は決して封鎖されないということを示してきました。

2026 年は、フィデル・カストロ最高司令官の生誕 100 周年の祝典と重なります。彼の人生、彼の仕事、彼の遺産に、私たちは今後実施するすべての行動を捧げます。

キューバに資源があるとすれば、最大の愛と創造的な抵抗の成果です。

キューバは今後も平等と社会正義の道を歩み続けるということを、確信してください。私たちキューバ人は、より良い未来のために生き、活動を続けて行きます。

キューバと日本の友好万歳！

CUBAPON より連帯のあいさつ

ようこそ、フェルナンド・ゴンサレス総裁、親愛なるアリシアさん。お二人とここで一緒にできて、とても嬉しいです。

私たち、日本キューバ連帯委員会、CUBAPON がキューバに行くときは、ICAP がいつも、学校や病院など、興味深い場所の見学のコーディネートをしてくれます。そして、ICAP 本部を訪問するたびに、私たちはあなた方の深い友情に恵まれていると感じます。

改めて深く感謝の思いを伝えたいと思います。

CUBAPON は 1993 年、特別期の中で結成されて以降、毎年、キューバの現実を自分の目で見ると、友好団を組織し、それから、米国の中傷を打ち消すため、見たことを広めるレポート集や機関紙を発行してきました。

私としては、2016 年 11 月のあの日のことが忘れられません。

私たちはその日、サンティアゴ・デ・クーバで、フィデルの生家やモンカダ兵営、革命勝利を宣言した市役所を訪れていました。その日の夜、フィデル・カストロ最高司令官逝去という悲しいニュースを知ったのです。翌日、早朝、ハバナに戻り、急いで ICAP 本部に向かいました。アリシアさんと抱き合って泣いたことを昨日のこのように覚えていてます。

悲しい日でしたが、キューバに寄り添い、悲しみを分かち合えたことは、特別期の最も苦しい時に、キューバとともにあることを目的に結成された CUBAPON にとって、何か象徴的な出来事でした。

本日、改めて、私たちの全面的な連帯を表明します。

遠く離れていても、私たちの共通の記憶と友情はずっと続きます。

日本キューバ連帯委員会

事務局次長 村上久美子



島のウリセスくんを囲んで

東京でランチ会

昨年夏、青年の島日系人協会の若き事務局長ウリセスくんが医学の知識と技に磨きをかけるべく来日したのを機に、7 月 6



日、東京水道橋の焼肉「あきら」でウリセスくんを囲んでランチ会を開催しました。

CUBAPON 役員の他、第 23 回訪問団に参加した大熊さんも香川県から駆けつけ、「山盛りの肉！」とおしゃべりで楽しいひとときを過ごしました。

(左から) CUBAPON 共同代表の村山さんと齋藤さん、事務局長の鎌田さん、事務局次長の村上さん、ウリセスくん

Tour Facilitator 「アイエフシー」 は皆様の共同出資の会社です

◆ アイエフシーはIFCC・国際友好文化センターの関連旅行会社です。“人と人との出会い”を通した友好と親善のプログラムを演出します。

◆ アイエフシーは文化、政治、福祉などの分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いいたします。

◆ アイエフシーはキューバ、メキシコ、ベトナム、中国、ドイツ、デンマーク、朝鮮、ロシア、その他東欧諸国、西欧諸国、北欧諸国でのプランニングを行っております。

東京都新宿区山吹町316番地 菊地ハイツ101
TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079

CUBAPON 活動 30 周年を歩み出して

《困窮のユートピア》といわれた時

● CUBAPON 発足はキューバが《困窮のユートピア》と評されるほどに、ソビエト連邦体制の崩壊の影響をもろに受けた時期だった。その経済的社会的疲弊をキューバは“特別期”として諸改革を打ち出し脱却しようと苦闘していた。なんとか連帯を届けたいと先輩諸氏や仲間と相談した結果、医療器具支援を手掛けることにした。送付の技術的なこともあり体温計、血圧計、使い捨て医療針、消毒用液等々、手荷物可能なものを訪問の度に持参したことを思い出す。

● 発足の会議は 1994 年 7 月 30 日、ラテン歌手あい御影さんが JR 目黒駅前にあったライブハウスで唄われる日に合わせて、あい御影さんの歌声鑑賞を兼ねて集い開催した。キューバに縁ある方の参画を意図した 100 人の共同代表委員を目指し、元締めの事務局長には自治労長野県本部副委員長（当時）であった君島一宇さんに就いてもらった。

準備会と称したが事実上の活動開始となり、早々に同年 11 月 21 日から 25 日開催の第 2 回キューバ連帯世界会議に代表派遣することにし、参加費カンパを募った。さらに第 2 回キューバ友好訪問団 12 月 2 日～10 日を少人数ながら実施した。同時に意気込みをうかがい知ることができよう。

● CUBAPON (クバポン) 結成に先だって、1993 年 1 月、鎌田が事務局長を務める IFCC 国際友好文化センターが企画し、キューバ側カウンターパートを青年同盟傘下の青年旅行社として訪問団が取り組まれた。その際得たノウハウをもって、その年の 1993 年 1 月 2 日～11 日、日本の労働組合の方々に参加を呼び掛け《労働者連帯》を掲げたキューバ友好訪問団が派遣され、報告書『経済封鎖下を生きるカリブの社会主義』（1994 年 6 月 25 日）を発行。この第 1 回訪問団には自治労富山県本部結成 40 周年事業として富山から 9 名が参加。この富山からの参加は後に IFCC 国際友好文化センター会長に就いていただいた又市征治・自治労富山県本部副委員長（当時）の尽力により実現したもの。この訪問団を後付けで第 1 回友好訪問団と位置付けることにし、以降 CUBAPON 主催の友好訪問団は 2023 年 11 月実施で 23 回を数えてきた。

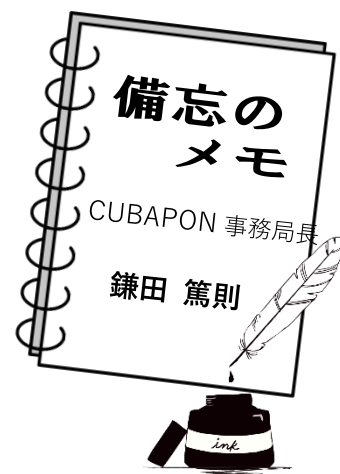
『経済封鎖下を生きるカリブの社会主義』と題した訪問団報告書は 22 号を数えることになった。回数が合わないのは

第 2 回・第 3 回訪問は合併号として発刊したためである。

また、第 23 回の友好訪問とは別に《ゲバラ没 40 年ツアー》を 2007 年に実施してきた。その他、プロジェクト関連、国際会議関連を含めるとキューバ訪問は数えきれない。

● CUBAPON の正式名は日本キューバ連帯委員会だが、「これでは《いかにも！》であり、活動の多面的展開のため、通称名を工夫してはどうか」と、TV ディレクターの丸山永恵さんが発案したのが日本＝Japón、キューバ＝Cuba のスペイン語（クーバとハポン）を結合した CUBAPON という名称である。今ではすっかり定着し、キューバでも CUBAPON で通用する。少々誇らしい気分になる。

丸山さんには CUBAPON 発足時、代表委員の一人で事務局



『経済封鎖下を生きるカリブの社会主義』
第 1 号表紙（1994 年 6 月発行）

丸の息子カミロ・ゲバラ氏から贈呈されたものだ。何とか日本で紹介したいと思い、無謀にも翻訳を丸山さんをお願いした。マルクス／エンゲルス／レーニンなどの論文の引用も多く、それらの日本語翻訳本とも照合しなければならず、時間を要した。「発行者あとがき」には当時一緒に活動していた中島修さん、佐藤有恒さんらの協力への謝辞も記されている。



丸山永恵訳『チェ・ゲバラの政治思想』IFCC 出版会（1992 年 5 月刊）



CTC（キューバ労働組合中央組織）でレクチャーをうける。

1993 年 12 月の友好訪問団で CTC を表敬訪問した

幾つかの記憶に残る活動から

▶ 医療器具支援活動／日本から持参のみでなく、渡航経由地メキシコで購入して持参したこともあった。訪問時は医療衛生労組、診療所訪問は不可欠だった。

▶ CTC（キューバ労働者中央組織）との特別な連帯／CUBAPON は労働者連帯を中心に掲げ日本とキューバの労働者の橋渡したらんと努めてきた。そのなかで CTC 代表の日本への招待交流もあった。1999 年 9 月フランス・デュラン CTC 第二書記、2003 年 4 月ペドロ・ルス CTC 第一書記（キューバ共産党政治局員／いずれも当時）を招待してきた。

▶ 稲作支援活動／経済封鎖に抵抗するための食料=キューバ人の主食「米」の自給を目指したものだ。菊田仁さん（新潟県庁農業指導員・当時）を現地に派遣して技術指導支援を行った。機材支援はドイツの NGO の協力を仰いだ。これは米国の経済封鎖との関係で日本からの直接支援ができないため。一部機材は鎌田の中国の友人の協力も得て中国で購入し直接キューバに輸送した。

▶ 日系移民記録映画「そしてイスラの土となる」を製作／会員の日高邦夫さん（故人）の強い思いが記録映画製作へと導いてくれた。日高さんの逝去後、自治労各県本部の方々、CUBAPON の会員仲間と資金を作った。監督は鈴木伊織氏。記録映画の主な舞台となっている青年の島で、ラテン歌手あい御影さんを中心に日系人移民 100 年祭（1998 年 9 月）を開催してきたことも印象深く記憶にある。

▶ 《米国に囚われている五人のキューバ人土の解放を求める日本百人委員会》の結成と活動／2006 年 10 月 5 日結成され CUBAPON は事務局の一端を担った。キューバ人土は 2014 年 12 月釈放されキューバに戻った。この年は CUBAPON 20 周年の年だった。当時の囚われていた一人に現在の ICAP（キューバ諸国民友好協会）のフェルナンド・ゴンサレス総裁がいた。

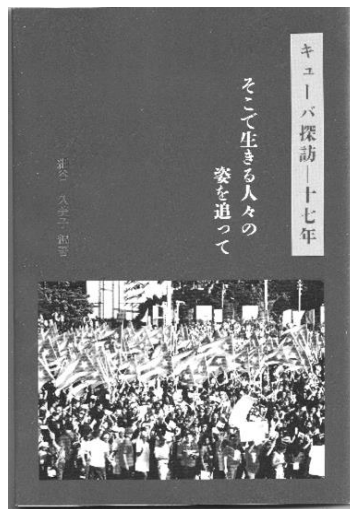


5人の反テロの闘士は
今もキューバの英雄

追悼 《キューバ連帯の戦士たち》

忘れがたい多くの仲間に支えられて CUBAPON は 30 年を経てきた。

・松矢文男さんは結成時の君島一宇・事務局長の後を引き継ぎ、「継続するキューバ革命 50 周年連帯の集い」（2009 年 7 月 25 日）の際の CUBAPON 全体会で事務局長に就き、精力的に活動されると同時に、キューバ教育研究会立ち上げにも尽力された。君島前事務局長の強い思いで開始されたキューバでの稲作支援プロジェクトは、2008 年 4 月、調査訪問団を皮切りに 2015 年 12 月の「プロジェクト評価式」まで足掛け 8 年続いたが、松矢さんの事務局長就任期間は文字どおり青年の島での稲作支援プロジェクトとともにあった。病のため、「稲作プロジェクト評価式」には残念ながら同行できず、2015 年 12 月 11 日、逝去された。



細谷久美子著『キューバ探訪—17年』IFCC 出版会（2013 年 7 月刊）

・30 年の歩みの中で、細谷久美子さんは《キューバ連帯の戦士》であり鎌田の同志であった。歩み始めた時期の IFCC 国際友好文化センターの事務局長だった鎌田は国際交流の道筋をつけるため 1993 年 1 月にキューバ訪問を企画し、仲間を誘った。このとき一緒にキューバを訪問したのが細谷久美子さんだった。以来、CUBAPON の活動にはいつも細谷さんが一緒だった。キューバ訪問時の現地での見聞をご自身でいつも

レポートとして作成され、それをまとめた『キューバ探訪—17年—そこで生きる人々の姿を追って』（IFCC 出版会）を 2013 年 7 月 26 日、上梓された。その後も、2020 年 12 月に逝去されるまで幾度もキューバを訪問されていた。

・IFCC 国際友好文化センター会長でもあった又市征治さんは CUBAPON 結成時から CUBAPON 共同代表委員で、活動の展開にあたって示唆に富んだ助言をいただいていた。特に稲作支援プロジェクト開始時の 2010 年 10 月には参議院議員ながら訪問団とともに青年の島を訪問された。

また、又市さんは参議院議員として、2019 年 3 月 19 日、参議院・政府開発援助等に関する特別委員会でもベネズエラの問題を取り上げ、ベネズエラの混乱と危機にたいする日本政府の役割を指摘してきた。日本のマスコミ、日本共産党を含め政党・政治家のマドゥロ政権に対する批判・非難の大合唱のなか、米国主導のそうした流れに追随しなかった唯一の国会議員であった。2023 年 9 月 18 日に逝去された。

・あい御影さんはノーチェバーナや東京キューバンボーイズなどで活躍されたラテン歌手。CUBAPON 訪問団とは別に後援の方々や幾度も“愛する”キューバを訪れておられた。CUBAPON 共同代表委員にも就いていただいていた。

特に、1998 年 9 月ハバナ、青年の島での日系人移民 100 年祭の取り組みは思い出深い。ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブの「華」オマーラ・ポルトゥオンドさんと偶然出会い、あい御影さんが旧交をあたためたのはこの 100 年祭準備のためにハバナの国立劇場を訪ねた時だった。

あい御影さんが「どうして神様は白いの、黒い天使はどうしていないの」と唄うラテン曲「黒い天使」にはいつも感涙した思い出がある。2017 年 2 月に逝去された。

・前述したが、日高邦夫さんの資金サポートがなければ日系移民記録映画「そしてイスラの土となる」の製作には至らなかった。鎌田の学生時代の後輩。2019 年、逝去された。

CUBAPON 30 年は多くの友人や仲間に支えられてきたが、存命の方々には触れていない。まだ支える側でいて欲しいからである。とりあえず、アトランダムに備忘メモをしたためた。

2025 年 1 月 1 日



いま、中南米では

中南米情勢が緊迫しています。CUBAPON はキューバ連帯の旗を掲げるとともに、中南米の人民の闘いと状況を発信します。

「月刊社会主義」より執筆依頼があり、『中南米の政治・経済』（筆：村上久美子）が1月号に掲載されました。今年もセニョーラは中南米の動きをウォッチしていきます！

極端な自由主義者（リバタリアン）ミレイ大統領の就任から1年が経つアルゼンチンは、12月10日、11月のインフレ率は前月比2.4%と発表し、日本の一部メディアは「アルゼンチン改革、奇跡の一年、財政黒字化・物価も安定」（日経12月10日）、「ミレイ大統領就任から一年のアルゼンチン、改革順風」（同紙12月11日）と華々しく報じた。

しかし、数字を精査すればミレイ大統領が就任する前の2023年のインフレ率は133%、今年四月は292%、直近月でも193%である。自分の政権が上げたインフレ率を元に戻していない上、GDPも5四半期連続でマイナスを記録し、今年前半には国民の約53%が貧困状態に陥った。貧困は弱い層を直撃する。子どもの65.5%が貧困の状態にあり、うち20%が極度の貧困の中で暮らしている。また年金生活者は、計算式の恣意的な見直しによる収入減と、包括的医療プログラム（PAMI）による医薬品への補助の削減、さらには二つ以上の不動産（例えば持ち家と車）を所有する高齢者は補助対象から除外されるなど、二重三重に打たれ続けている。PAMIからの補助がなければ医薬品の価値は現状でも退職者の収入の30%に相当する上、ミレイ政権が進める規制緩和により、製薬会社は何の規制も受けずに値上げできる。「食事を一日一回にするか薬を飲むか」、そこまで追い詰められていると訴える高齢者の声は決して誇張ではない。明らかに勝者と敗者がいる、この実態は果たして「順風満帆」と言えるだろうか。

一方、ブラジルも12月4日、7月から9月期の経済状況を発表した。これによれば、前年比GDPが4%増、失業率の低下などを受け、家計消費は5.5%アップ、貧困率は31.6%から27.4%に、極度の貧困率も1.5ポイント減少し4.4%と、2012年以来、初めて5%を下回った。ブラジルでは2023年に返り咲いたルラ大統領が、前任の極右指導者ボルソナロ大統領のもとで中断または縮小された社会プログラムを再開したことにより約300万人が極度の貧困から脱却した。ブラジル地理統計院は「こうした社会プログラムが存在しなければ貧困率は32.4%、極度の貧困にある人の割合は11.2%にのぼったであろう」と予測している。

※ 世界銀行が定める貧困は一日あたりの購買力6.85ドル、極度の貧困は一日2.15ドル以下を指す

ブラジル、アルゼンチンと国境を接するウルグアイで、11月24日、大統領選挙の決選投票が行われ、中道左派「拡大戦線」のオルシ候補が勝利し、ラカジェ・ポウ現大統領率いる国民党は1期5年で政権を手放すこととなった。「世界一



貧しい大統領」（実際は質素であって、貧しいのではない）として知られるホセ・ムヒカ元大統領を輩出した左派連合「拡大戦線」の固い支持基盤と併せて、アルゼンチンとブラジルの国情が大きく影響したと推測される。

中南米ではアルゼンチン、パラグアイなど数力国を除き左派が優勢である。右派政権のエクアドルは2025年2月に大統領選挙があるが、今年4月にウィーン条約を破ってメキシコ大使館を襲撃、元副大統領を拉致して、CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）首脳会議で厳しく糾弾された現ノボア大統領が再選される見通しは薄いと見られる。

一方、世界的に存在感を増しているグローバルサウスに地域全体が含まれる南米・カリブ諸国の国際的な立ち位置は、右派・左派では割り切れなくなっている印象がある。

ペルーでは、カスティージョ左派政権が司法クーデターで倒された後に大統領に就任したボルアルテ大統領のもと、中国の「一帯一路」プロジェクトが進められ、習近平主席が出席して港湾施設の除幕式が開かれ、片や「左派粹」のチリのボリッチ政権はアメリカ南方軍の代表団を招き、チリ国防大臣を務める故サルバドル・アジェンデ元大統領の孫が同席する会合で、米軍のリチャードソン将軍より「現在の南米の脅威はベネズエラのマドゥロ大統領だ」と語られるという、目を疑う光景が見られた。

また、近年、拡大著しいBRICsは、中南米地域では当初からのメンバー国ブラジルに加え10月の総会でボリビアとキューバをパートナー国として迎え入れたが、加盟に積極的だったベネズエラは、ブラジルのルラ大統領の反対で加盟が見送られたと伝えられる。7月のベネズエラ大統領選に対する疑念が根底にあると言われており、コロンビアのペトロ左派政権も同じ理由でベネズエラと距離を置いている。

そのベネズエラは、選挙で敗退したエドモンド・ゴンサレス氏が米国、EU議会などの後押しを受け、かつてのグアイド氏と同様「ベネズエラ大統領」を自称し、「1月10日にベネズエラで大統領就任式を行う」と公言しており、混乱が懸念される。

90年代、「反米大陸」と呼ばれた時代の熱意と団結を今こそ求めたい。『月刊社会主義』2025年1月号より